

## 原稿未着演題

抄録集より転載

### Cefsulodinの中耳粘膜および耳漏中移行に関する研究

酒井 国男他(関西労災病院)

中耳炎患者におけるCefsulodin(CFS)の中耳組織および耳漏中へ移行を知る目的で、中耳根本術および鼓室形成術施行例にCFS1gを静注し、投与後30分から2時間の中耳および乳突洞粘膜を採取し、CFSの濃度をアガーウエル法にて測定した。また手術前の慢性中耳炎患者にCFS1gを静注し、2時間後の耳漏をペーパーディスクにて採取し、CFSの濃度を測定した。

#### 質 疑 応 答

**質問** 杉田麟也(順大)

同一症例で中耳粘膜と耳漏内抗生剤濃度を測定している例があれば移行比などお教え下さい。

**質問** 野村隆彦(愛知医大)

①中耳粘膜採取部位は一定に決めていたか。  
②中耳腔と乳突洞粘膜を別々に採取して比較したか。③真珠腫症例が含まれている場合には、他の例との差は認められたか。

**質問** 藤巻 豊(順大)

中耳粘膜への移行が血清中濃度の300%の症例は他の症例に比し何か差異があったか。また、他の症例は中耳粘膜への移行が100%以下であったが、平均の算出方法に問題はなかったか。

**質問** 岩沢武彦(札幌通信)

①検体の血液処理について、特に注意されたか。  
②測定法で検定菌は、阻止帯は明確であったか。

**応答** 酒井国男(関西労災)

粘膜採取部位は一定していない。関西労災では上教室を中心に採取する様にしている。真採腫と化膿性中耳炎の差は検討していない。

組織内移行に関して血液の処理が問題となるが、検体が微量であるので、内芽内に、もし血塊があれば、いくら生理食塩水で治っても誤差は生じるものと思われる。

### Cefotiamの中耳粘膜および耳漏中移行に関する研究

大矢 良人他(関西労災病院)

中耳炎患者におけるCefotiam(CTM)の中耳組織中へ移行を知る目的で、中耳根本術および鼓室形成術施行例にCTM1gを静注し、投与後30分から3時間の中耳および乳突洞粘膜を採取し、CTMの濃度をアガーウエル法にて測定した。また手術前の慢性中耳炎患者にCTM1gを静注し、耳漏をペーパーディスクにて採取し、CTMの濃度を測定した。